

質問事項		記述式回答
<p>来年秋を見据えて、現在の景気の基調</p>		<p>短期的な調整圧力は続くものの、景気は緩やかに持ち直しつつある。個人消費は、自動車販売や商業販売等に持ち直しの動きがある。雇用情勢は総じて良好で、名目賃金の回復基調も定着してきた。企業収益は増税後も全体としてみれば増益基調を保ち、企業の設備投資意欲も底堅い。実質輸出は緩やかに回復しつつあり、原油価格下落で交易条件も徐々に改善しつつある。物価上昇率はやや鈍化している。在庫調整の長期化は引き続きリスクだが、9月の生産の持ち直しなどやや明るい材料もある。地政学リスク等による金融市場の不安定化には今後も注意が必要。今般の追加金融緩和に加え、補正予算や円安効果還元策の策定・実施が必要。</p>
1	<p>9月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。</p> <p>① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び(正規比率の上昇を含め)や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ(設備投資計画の動向も含む) ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向(一時的要因を除いた実勢と期待物価) ⑤ マーケット(株価、為替、金利等)の動向</p>	
<p>地方創生・地域活性化</p>		
2	<p>地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身(自社)の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。</p>	<p>地域活性化については、これまでも公共事業によるインフラ整備、製造事業所の誘致、商店街振興など様々な施策が講じられてきたが、十分な成果を上げるには至らなかった。その背景には、やはり地方における住民の減少があらう。人口が減少する中で経済活力の維持・向上を図るためには、むしろ人口の集積を活用する視点が大切で、コンパクトシティの推進や中核的な都市の振興が重要ではないか。大胆な規制改革を試みる国家戦略特区は、その有力な手立てとなろう。また、交流人口を増やすために、外国人観光客の受入拡大や国内旅行の積極化を促す観光振興が望まれる。農業も企業との連携等により伸びる余地は大きく、地域経済への貢献が期待される。</p>
<p>その他</p>		<p>現在の為替水準については、経済のファンダメンタルズから大きく乖離した水準とは考えていない。8月下旬からの円安進行の影響は、個社や業種によって区々とみられるが、マクロ全体では緩やかなペースでの円安持続は輸出の後押しや第一次所得収支黒字の増加等を通じてプラスの効果をもたらすと考えている。また、原油価格が下落していることもあり、円安による交易条件悪化というマイナス圧力も現状では抑制されつつあると考える。輸出企業を中心とする円安効果の還元(「円安還元セール」での賃金引上げ、投資拡大)に期待する。</p>
3	<p>10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。</p>	